

砺波総合病院
から

皮膚科
部長
湯上 徹

市立砺波総合病院
☎32-3320

病院のホームページもご覧ください。

あざとレーザー治療の おはなし

あざについて

メラニン色素とは、人間の肌の色を決めているもので、皮膚や髪の毛に含まれており、量が多いと皮膚は黒くなり（黒人）、少なければ血液の赤みが目立つ白い肌（白人）になります。日本人は黄色人種なのでその中間です。そのメラニン色素が皮膚に溜まることによりいわゆる青あざ、茶色あざ、黒あざができます。色の違いは皮膚のどの位置にメラニン色素があるかによ

って決まります。簡単に言うと、皮膚の深い位置にあると青あざになり、中間だと茶色あざ、浅い部分だと黒あざとなります。

また、あざの色の濃さは、メラニン色素を有する細胞の数が多いか少ないかによって決まります。一方、赤あざは全て血管の発育異常で、医学的には血管腫とよびます。皮膚の表面に血管が集合しているため、血液中のヘモグロビンが透けて見え、その部分が赤あざになるのです。赤あざの場合もこの血管の太さ、数、深さによって色の濃さと調子が違ってきます。淡いピンク色、赤色、赤紫、青紫と様々になります。

レーザーとは

レーザーはレーザー光ともいうように、光の一種です。様々な物質に引き金となる光をあてて作り出した人工的な光です。現在、医療の分野には色素レーザー、炭酸ガスレーザー、ルビールーザーなど様々なレーザーが使われていますが、これらの名称はレーザー光の発信にどのような光源を用いたかを表しています。

ひとくちにレーザーで治療をするといいっても、どのようなレーザーを使うかによって治療できるものが違ってきます。

導入されたレーザー機器と 有効な疾患

この春、当院皮膚科に導入されたレーザー機器は最新型のQスイッチアレキサンドライトレーザーというものです。この機器は前述のメラニン色素の沈着したものに有効です。

保険適応となるものは、①太田母斑 ②異所性蒙古斑 ③外傷性色素沈着症などです。顔の太田母斑の場合、5〜10回の治療を行います。ほぼ100%完治します。

それ以外にも、特に有効と言われているものは老人性色素斑（しみ）や雀卵斑（そばかす）ですが、これらはよく効く人の場合1回で消えることもありますが、2〜3回の治療が必要な場合もあります。しかし、この場合は自由診療になるため治療費は高額となります。

またレーザー治療の対象とならないしみに肝斑（かんぱん）というものがあります。これは30歳代〜40歳代の女性に多く、顔面の目の下、頬、額やくちびるの周囲などで、薄茶色や黒茶色の小さなしみが広範囲に現れ、左右対称に出るのが特徴です。これにレーザーを当てると黒くなるため、当院でも美白剤の外用と内服による治療を行っており、さらに紫外線に対する指導が重要となります。

受診について

青、茶、黒のメラニン色素系のあざやしみに関しての治療を希望される場合は、まず当院の皮膚科を受診してください。レーザー治療の適応となるかどうかを診察して判断し、治療適応がある場合はレーザーの治療効果や経過、副作用、日常生活での注意点を説明したうえで、同意の得られた患者さんに治療を施行します。



医療職員を募集します

市立砺波総合病院総務課 ☎32-3320

募集期限 8月6日（木）

1次試験 8月22日（土）

場所 市立砺波総合病院

試験内容 教養試験、適性検査

※募集の詳細はお問合せください

募集職種（資格要件があります）

看護師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、呼吸療法認定士（理学療法士・作業療法士）、臨床工学技士、臨床心理士、診療情報管理士
いずれも昭和50年4月2日以降に生まれた方